小林中・西小林生徒４名が全国に挑む

９月１日、第66回国民体育大会水泳競技に出場する小林中大木場真由さんと、第42回ジュニアオリンピック陸上競技大会に出場する小林中窪谷早希子さん、海江田理湖さん、西小林中の大迫諒太さんの４名が、小林市長を表敬訪問し報告を行いました。４名はは市長に「自己新記録を目指して頑張ります」と決意を述べました。

電気業組合がボランティア活動

９月９日、電気使用安全月間に合わせ、小林電設協同組合と小林地区電気工事組合がボランティア活動を行いました。小林地区では、17事業所が16件の高齢者宅の電気設備を点検。野尻地区では７事業所が、通学路の街灯を点検しました。

田代芽衣さんがラオスへ出発

９月15日、青年海外協力隊でラオスへ派遣される田代芽衣さんが出発を前に市長を表敬訪問しました。派遣期間は２年間。「６年間の看護師経験を生かして、看護技術の向上と指導にあたりたい」と抱負を話していました。

自殺予防を街頭で呼びかけ

９月15日、市内のスーパーマーケットの店頭で自殺予防キャンペーンが行われました。ＮＰＯ法人こばやしハートムや、こころの健康サポーターなど約40人が参加。チラシやグッズを買い物客に配り、自殺予防を呼びかけました。

九州地方整備局の大脇鉄也所長【写真右】は「これまで以上に市民の安全・安心を守ることに取り組みたい」とあいさつしました。

大規模災害に備えて国土交通省と災害応援協定

９月15日、小林市と国土交通省九州地方整備局が大規模な災害時の応援に関する協定を結びました。支援方法などを決めることで被害の拡大を防ぎ、円滑な支援を進めることが目的。肥後市長は「新燃岳噴火や東日本大震災もあり、強い危機管理意識を持って防災に取り組みたい」とあいさつしました。

松ケ野幸宏駅長は「今年で３年目となるが、多くの集客の望めるイベント。今後も続けていきたい」と話していました。

20万球の彼岸花でお出迎え道の駅ゆ～ぱるのじりで物産展

９月18日から19日、道の駅ゆ～ぱるのじりでひがん花イベントが開催されました。会場では、新鮮な野菜や果物、門川町の海産物などの販売や抽選会、施設利用者への料金特典を実施。隣接した大塚原公園には、今年ボランティアらが植栽したものも含めて、約20万球の彼岸花が植えられています。

地域ぐるみで自殺対策を市自殺対策協議会が発足

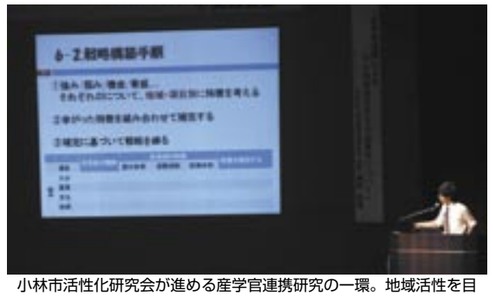
９月１日、小林市自殺対策協議会が設立され、保健センターで第１回目の会議が開かれました。同協議会は、本市が県内でも高い自殺死亡率である現状を受けて、総合的に自殺対策を図ることを目的に設置。関係団体の代表や行政機関の職員など20人から組織され、今後、自殺の実態把握や団体間の連携、普及活動に取り組んでいきます。

委員でもある小林保健所藤本茂紘所長による基調講演も行われ、自殺対策に取り組む理由や、基礎知識について説明を行いました。

市民のための質の高い行政へ外部評価委員会が事業評価

９月１日、外部評価委員が事務事業を検証する行政評価外部評価委員会が開催されました。学識経験者や公募による市民など10人の委員が質疑応答を重ねて事業を評価。市が実施する２事業について説明を受け、委員から質問や意見が出され、評価の判定がなされました。

外部評価委員会はあと４回実施され、評価の確定後市長に報告。傍聴も可能です。　問：総合政策課　TEL 23-0456



小林市活性化研究会が進める産学官連携研究の一環。地域活性を目的化に現地調査や分析を行い、３月に報告会を開く予定です。

小林市の強みは農業産学官連携で大学生が発表

８月25日、文化会館で産学官連携小林市活性化研究事業の中間報告会が開催されました。中央大学総合政策学部細野助博教授とその研究室の学生22名が、これまでの様々なデータ分析と現地調査から市の特性を分析。合併により農業が強化された強みについて、６次産業化が有効ではないかなどの報告がなされました。

授業を受けた谷ノ木良くんは「農家や料理をつくってくれる方、牛の命に感謝して食べたい」と感想を話しました。

安心・安全な宮崎牛おいしい東方小で食育のモーモー教室

８月30日、モーモー教室が東方小で開催されました。５年生児童15人を対象に、地元の肥育農家である中窪勝彦さんやＪＡ経済連職員が講師になり、おいしい宮崎牛ができるまでを解説。その後、児童は宮崎牛と外国産牛を食べ比べ、宮崎牛の肉の柔らかさやおいしさを感じていました。